

平成21年5月20日
名古屋大学大学院医学系研究科委員会
医学専門委員会
最終改正 2019年6月5日

学位申請要領 [課程博士]

目次

1. 申請資格について
2. 申請条件について
3. 提出書類について
4. その他留意事項について
5. 博士学位の申請から授与までの流れ
6. 短縮修了による学位取得
7. 大学院博士課程の講座及び専門分野名一覧

要領を本学学位規程、本研究科で定める申合せ事項等に基づき、以下のとおり定める。

1. 申請資格

学位を申請できる者は、次の各号の一に該当するものであること。

(1) 本学博士課程に4年以上在学（休学期間を除く）し、所定の授業科目を履修して30単位以上を修得し、大学院研究発表会にて予備審査を終了し、かつ、必要な研究指導を受けた者で、本年度に修了を予定している者

(2) 本学博士課程に4年以上在学（休学期間を除く）し、所定の授業科目を履修して30単位以上を修得し、大学院研究発表会にて予備審査を終了し、かつ、必要な研究指導を受け退学した者が、在学年限（休学期間を除く）を通算して7年以内に博士学位を申請する者

ただし、この場合論文が、所定の期間内（7年以内）に受理されることが条件となる。

2. 申請条件

(1)-1 原則として本研究科が行う大学院研究発表会（6月及び11月の年2回実施）において、提出する論文の発表を行い予備審査を終了した者

この予備審査（研究発表会）の有効期間は、予備審査（研究発表会）終了後翌年度4月から起算して24ヶ月以内の受理審議とする。

(1)-2 満期退学後、大学院研究発表会（予備審査）の有効期間が切れた者は、年2回（6月または11月）開催の大学院研究発表会にて発表を行なうか、または事前に指導教員と相談の上、以下のとおり公開の予備審査発表会を実施し、予備審査を終了しなければならない。

ア. 指導教員と相談の上、予備審査委員候補者名簿を作成し、大学院係へ提出する。

イ. 大学院教育委員会にて選出された予備審査委員3名および指導教員が出席可能な予備審査発表会日時（1時間）および公開可能な発表会会場を確保の上、予備審査発表会公示様式を作成し、予備審査発表会開催の2週間前までに大学院係へ提出すること。

ウ. 予備審査発表会実施後、予備審査委員3名および指導教員の予備審査発表会実施結果（審査委員は可否判断のみ、可の場合のみ署名押印。指導教員は実施確認の署名押印。）を所定様式にて大学院係へ提出すること。

エ. 予備審査は、3名の審査委員全員が可と判断したことをもって終了とする。

オ. 予備審査発表会実施後は、速やかに学位申請（事項3. 提出書類）を行うこと。

カ. この予備審査の有効期間は、予備審査終了後翌月から起算して24ヶ月以内の受理審議とする。

キ. 複数の筆頭著者に係る同意書（兼誓約書）が提出された場合は、当該学位申請受理審議前の大学院教育委員会にて、筆頭著者として認めて良いかを別途審議する。

(2) 本研究科が定めた期日までに論文提出が可能な者

(3) 提出する学位論文は、次の各号に該当するもの。

ア. 論文は、本研究科以外の大学院へ学位論文として提出したことがないもの。

イ. 論文は、査読付き英文論文誌（以下、英文誌とする）に受理され、原則として印刷公表されたもの。ただし、印刷公表未済のものでも、英文誌編集者からの受理証明書又は掲載予定証明書添付のものは、この限りでない。

ウ. 論文は筆頭著者であり、かつ、著者の所属に必ず名古屋大学大学院医学系研究科の所属であることが明記されていること。筆頭著者が複数の場合は他の筆頭著者及び責任著者の同意書（兼誓約書）が提出されていること。

エ. 原則として、学位論文は、MEDLINE、かつ、Web of ScienceのSCIあるいはSCIEに掲載されている英文誌に掲載されたもののみとする。MEDLINEならびに

SCI/SCIEに掲載されていない英文誌については受理審査時に判定を行う。

3. 提出書類

(HPのチェックリストおよび記入例を参照し、様式をダウンロードし入力印刷すること)

(1) 学位申請書：1通 (HP記入例参照：所定様式有)

ア. 入学年度・専攻・専門分野・氏名(ふりがな)を記入し捺印すること。

イ. 受付年月日・受付番号は記入しないこと。

ウ. 指導教員の認印を必ず受けること。

(2) 論文目録：1通 (HP記入例参照：所定様式有)

記入事項は、論文タイトル(英文の場合は、和訳(直訳)を付すこと。)、掲載英文誌名、巻号及び発行年月とする。論文が未公表の場合は、掲載予定の英文誌名及び掲載投稿原稿の総頁数(写真・図表等を含む)を記入し、巻号及び掲載予定年月がわかる場合には、併せて記入すること。副論文又は参考論文を1編以上提出する場合は、題目を所定の欄に併せて列記し、英文の場合は、和訳(直訳)を付すこと。

(3)-1 主論文の要旨：1部(生協印刷部によって校正を完了したもの)

作成においては表紙に記入する講座及び専門分野名は、HPの「講座及び専門分野名一覧」を参考にする。

ア. 要旨(主論文の内容)は和文・英文(ただし、外国人留学生に限る)で2,000~3,000字(800words~1,200words)程度<校閲の文字カウントで要確認>に要約(例えば①緒言 ②対象及び方法③結果④考察⑤その他等の順に)し、レイアウトのページ設定でA4判横書き(横38字、縦38行)フォント明朝体、フォントサイズ10.5で作成すること。

また、要旨の最後に、結論又は結語の章を必ず入れること。表紙及び図表などは文字数の制限外とし、要旨本文を説明するのに必要な分のみ載せること。

イ. 要旨は、必ず指導教員からのチェックを受け、検討・批判等に堪えうるよう充分推敲と校正を行うこと。内容が不十分な場合は、本研究科委員会から論文の受理を拒否されることがある。

(3)-2主論文の要旨 PDFファイル(学位申請後メールにて提出)

(4) 主論文：1編(主著の英文の論文)

ア. 「2. 申請条件」の(3)を満たしていること。

イ. 申請時における最新のバージョン(出版版、オンライン出版版、著者最終原稿の場合はWord版等の別)であること。

ウ. 論文は原則、別刷のものとし、論文タイトルには和訳(直訳)を、主・共著者の漢字氏名(外国人であればカタカナ)を表紙の余白部分に必ず付記(コピーの切り貼り可)すること。

なお、論文が未公表またはインターネットでの掲載の場合は、論文掲載投稿原稿の写し1部を前記と同様に論文タイトル等を付記し、提出すると共に、未公表の場合は発表機関の受付証明書又は論文掲載予定証明書1通を添付し、併せて以下の点に留意すること。

(ア) 論文が英文誌のHPにてインターネット上で掲載されている場合は、そのPDFのプリントアウトでも可。

(イ) 論文掲載投稿原稿の場合は、綴じ代としての余白を左側に2cmほど必ずとること。

(ウ) 論文は、学位授与後1年以内に印刷公表しなければならないことになっている。

また、学位授与後に公表する場合は、名古屋大学審査学位論文と明記することを要する。

(4)-2主論文 PDFファイル(学位申請後メールにて提出。和訳タイトル、主・共著者の漢字氏名は不要)

- (4)-3インターネット公表確認書（別紙6）及び公表可否に関する裏付け資料
- (4)-4「学位論文に関する情報開示」（別紙8）
指導教員の自署及び認印を必ず受けること。
- (5) 主論文以外の論文（ある場合）：各1部
主論文以外に論文を提出しようとする者は、副論文（内容が主論文と直接関係があるもの）又は参考論文（内容が主論文と直接関係がないもの）1編（ファーストオーサー又は共著のもの）以上を提出するものとし、英文・和文は問わない。
- (6) 履歴書：1通（別紙5-1、5-2、HP記入例参照：所定様式有）
ア. 氏名は、戸籍に記載の氏名どおりに記入すること。（学位記にはこの氏名を記載する）留学生は自国の大学等の証明書通りに記入すること。（大文字・小文字の区別、姓名の表記順に注意。）
イ. 本籍は、都道府県のみを記入すること。
ウ. 学歴欄は、大学卒業から記入すること。卒後の初期研修医の期間2年は、学歴に含めて記入すること。
エ. 研究生の期間は研究歴に記入すること。
オ. 職歴欄は、現在に至るまでの職歴を全て記入すること。
カ. 履歴表（HP記入例参照：所定様式有）
- (7) 留学生はこの他に、パスポートのコピーと自国の卒業証明書のコピーを提出すること。
- (8) 筆頭著者が複数の場合は他の筆頭著者及び責任著者の同意書（兼誓約書）を提出すること。

4. その他留意事項

受理審議においては指導教員の出席が必要である。

学位申請書類は、事務的な点検および次段階の説明（約1時間）が必要なので、遅くとも申請の2週間前には大学院係へ連絡し予約の上、提出すること。

論文の受理は、本研究科委員会での説明後に審議され可否投票によって決定される。なお、可否投票の結果、否とされた者は同一の論文にて再度申請することはできない。

5. 博士学位の申請から授与までの流れ

- (1) 予備審査（大学院研究発表会等での論文内容の発表）終了者
- ①学位申請（申請者）
 - ②論文受理審議（研究科委員会）
 - ③論文審査及び試験
 - ④論文審査及び試験結果の報告に基づく合否審議（研究科委員会）
 - ⑤学位授与の上申（合格決定の日から20日以内に総長に上申）
 - ⑥学位授与（授与式：9月及び3月）

6. 短縮修了による学位取得

(1) 申請資格

優れた研究業績を上げた者で、博士課程に3年以上在学（休学期間を除く）し、所定の授業科目を履修して30単位以上を修得し、大学院研究発表会にて予備審査を終了し、かつ必要な研究指導を受けた者

(2) 申請条件

指導教員の推薦を受け、短縮修了の審査を受けるために必要な書類を提出し、審査に合格した者で、次の各号に該当するもの

- ア. 大学院在学中の成績が特に優秀な者
- イ. 原則として本研究科が行う大学院研究発表会（6月及び11月の年2回実施）において、提出する論文の発表を行い予備審査を終えた者

ウ. 提出する論文は、次の各号に該当するもの。

(ア) 主論文は、本研究科以外の大学院へ学位論文として提出したことがないもの。

(イ) 主論文は、原則として印刷公表したものであること。ただし、印刷公表未済のものでも、英文誌編集者からの受付証明書又は掲載予定証明書添付のものは、この限りでない

(ウ) 主論文（主著の英文の論文1編）は、一流の英文誌に掲載（受理された場合を含む）されたものであり、かつ、その内容が学問的にも価値が特に高いものであること。一流の英文誌への掲載は、原則的にはファーストオーサーで2編以上とし、2編の論文の掲載誌のインパクトファクター合計が5.0以上の場合のみ認める。インパクトファクターは大学院在学中の最高値を用いる。ただし、特に短縮修了要件に該当する英文誌へ掲載された論文である場合は、この限りでない。

新規発行誌のためにインパクトファクターが未掲載の場合には、短縮修了申請時に別途申し出ること。

特に短縮修了要件に該当する英文誌へ掲載された論文とは、1～3年次在学中に当該英文誌のインパクトファクター5.0を超えたもの、または、本研究科委員会で定める短縮修了要件該当論文誌一覧に掲載された英文誌に投稿し公表されたものをいう。その一覧はHP掲載のとおりとする。

なお、この一覧は、毎年見直し変更することもあるが、在学中に本研究科委員会で定める一覧に一度でも掲載された英文誌上での公表であればよい。

(3) 指導教員の推薦により短縮修了の審査を受けるために必要な提出書類

ア. 指導教員からの「博士課程の修業年限に関する特例」による推薦書：1通

様式は医学部HPメインメニュー→大学院教育→短縮修了手続についてよりダウンロード出来ます。

イ. 研究業績目録：6部（任意様式）

○著者名 ○原著名又は著書名 ○発表英文誌名又は発行年 ○巻・頁・発行年

※上記項目を網羅していること。

ウ. 主論文とする原著（未印刷の場合は、論文掲載予定を証明する書類及び原稿の写）：6部（2編で申請する場合はそれぞれ6部）

※資格審査終了後、上記3の学位申請手続きが必要となります。

7. 大学院医学系研究科博士課程の講座及び専門分野名一覧

HP※参考のとおり